

世俗にいひつたへたる梅はとぶ櫻はかるゝよの中には何とて松はつれなかるらんといふ歌、源平盛衰記には菅原大臣東風ふかばといふ御歌をよみ給ひしかば紅梅つくしへ飛行けれど同じ御所にならびて有ける櫻の御言の葉にかゝらざることを恨みて一夜が中に枯にけるを源順が歌に梅はとび櫻はかれぬ菅原や深くぞ頼む神のちかひをとよみけるよしゑるしたり此歌をつくりかへたるにやあらむされど此順がといふも本末かけあはずいとくつたなき歌也、

〔笈埃隨筆五〕難波梅。

難波の梅といふも一木とす梅からず岸の姫松磯訓松などいふが如し百濟王仁梅によそへて、仁德帝を諷諫し奉りし和歌より名譽たりさるに弘安禮節に曰難波の別當源判官殿へ花の制札申請るに辨慶に仰付らる其札に江南梅花折一枝者可處嚴科者也と認ければ義經御覽じ花を折もの心なくては折らじ餘りに強き文言なりとて江南梅花折一枝可切一指也と直されしと云々此制札今は須磨寺に有て若木の櫻の制札とす心得ず也、

此花江南所無也於一枝折盜之輩は任天永紅葉之例伐一枝者可剪一指者也、

壽永二年二月

〔古今要覽稿草木〕臥龍梅。

臥龍梅は龜井戸梅やしきに植る所古木にして世のしる所なりまゝその種を植るものあり正月末より開く花は單瓣清白中輪にして上花也萼黃綠にて紅色を帶たりその香馥郁として數歩にかほれり又一種淡江のものあり花形白色のものと異ならずされど清白の方を眞の臥龍とすべしと春田久啓韵いへり淡紅は即白花より變せしものなるべし諸書に淡紅の説見えず、その木の形枝の末地中に入て幹となり枝と成てはひわたる故臥龍梅と黃門光國卿名付給へ